

異常気象の実態に迫る

平成24年1月13日（金）14～16時（開場13:30）
＜気象庁 講堂＞

新潟県 撮影・提供

国土交通省 北陸地方整備局 撮影・提供

講演1：「異常気象」の現場から

読売新聞 東京本社 科学部

記者 佐藤 淳

講演2：異常気象の発生要因

気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課

予報官 前田 修平

講演3：日本の顕著な気象現象の将来予測

気象研究所 環境・応用気象研究部

第三研究室長 栗原 和夫

司会：気象予報士 河島 未怜

日時：平成24年1月13日（金）14～16時

（開場13:30）

場所：気象庁 講堂

（東京都千代田区大手町1-3-4）

入場料：無料

定員：200名（事前申し込み制・先着順）

問い合わせ先：

気象庁 地球環境・海洋部 地球環境業務課

電話：03-3212-8341（内線4225）

メール：kikou-kouenkai@met.kishou.go.jp

ウェブ：<http://www.data.kishou.go.jp/obs-env/portal/kouenkai/index.html>

講演概要



「異常気象」の現場から

読売新聞 東京本社 科学部 記者 佐藤 淳

巨大化するハリケーン、猛暑、極寒、豪雨、乾燥……。頻発する「異常気象」と地球温暖化との関連が指摘されている。温暖化の影響が忍び寄る南極やヒマラヤ、水危機にあえぐアフリカ、そして大気を正常に保つ熱帯林の破壊が続くアマゾン……。世界のホットスポットでの取材を踏まえ、各地で起きている異変の一端を紹介する。



異常気象の発生要因

気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課 予報官 前田 修平

異常気象は、大気や海洋などの気候システムの大きな「揺らぎ」(変動)に関係して発生する。これら揺らぎの例としては、「エルニーニョ/ラニーニャ現象」や「北極振動」、「偏西風の蛇行」などが挙げられる。本講演では、異常気象の具体例を挙げつつ、その要因である気候システムの揺らぎについて解説するとともに、季節予報における異常気象予測の現状について紹介する。



日本の顕著な気象現象の将来予測

気象研究所 環境・応用気象研究部 第三研究室長 栗原 和夫

気象庁気象研究所では、日本各地の気候特性を考慮しながら、各地域における気候変化、特に顕著現象を予測するため、日本の気候を高精度で再現・予測できる数値モデルを開発した。このモデルを用いて地球温暖化によって引き起こされる21世紀における日本の気候変化を、特に強雨を中心にして予測する研究を進めている。本講演では、これまでの研究成果を紹介する。



司会

気象予報士 河島 未怜

2009年に気象予報士を取得。CSでのお天気キャスターを経て、現在日本気象協会所属。



<申し込み先>

「代表者のお名前、参加人数、電話番号、メールアドレスまたはFAX番号」を、メールまたはFAXにてお知らせください。

気象庁 地球環境・海洋部 地球環境業務課

住所: 〒100-8122 東京都千代田区大手町1-3-4

電話: 03-3212-8341(内線4225) / FAX: 03-3211-8309

メール: kikou-kouenkai@met.kishou.go.jp

ウェブ: <http://www.data.kishou.go.jp/obs-env/portal/kouenkai/index.html>

気候講演会 <異常気象の実態に迫る> 申込用紙(FAX用)

お名前 _____

参加人数 _____

電話番号 _____

FAX番号 _____

※ 切り取らずにこのまま送信してください。FAX: 03-3211-8309 (気象庁 地球環境業務課)